

2024年11月11日

ITER 機構長より ITER Award が贈られました

11月5日、国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構（以下QST）の辺見 努 様がご来社され、同機構が参画するITER（イーター）プロジェクトへの弘電社の貢献に対しITER Award 受賞記念盾（レプリカ）が贈られました。

ITERは核融合エネルギーの実現を目指す研究施設であり、日本・欧州・米国・ロシア・韓国・中国・インドの7極で活動する超大型国際プロジェクトです。このプロジェクトの中で、QSTは日本の国内機関に指定され、活動の推進役として一翼を担われています。



ITERの部品調達はプロジェクト参加の各国に分担されていますが、日本は多くの部品供給を行っています。中でも高さ16.5m、幅9.2m、総重量310トンという巨大な超伝導コイル（トロイダル磁場コイル、以下TFコイル）については、全19コイルのうち9コイルを、日本が製作しています。

当社は巻線と呼ばれる内部構造を中心に、直接的な製作に参画しました。前例のない巨大物に対し、ミリ単位の精度が求められる非常に難易度が高い作業でしたが、これまで培った技術を発揮し、2013年3月より5箇年にわたり、5基のTFコイル製作に携わりました。

2023年12月、ITER TFコイルプロジェクトチーム（欧州と共同で、QST、三菱重工業（株）、三菱電機（株）、東芝エネルギーシステムズ（株）など多くの研究機関、企業の研究者、技術者から構成）に対し、ピエトロ・バラバスキ ITER 機構長より "ITER Award 2023" が贈られましたが、この受賞に関して当社の貢献が評価され、この度の受賞記念盾（レプリカ）の拝受となりました。

オリジナル盾の文言は『Category : Manufacturing team』ですが、レプリカ盾では『Contribution on : Completion of All ITER Toroidal Field Coils』となっており、TFコイル製作に対するものであることがより表現されています。

また土台の金属鋼材は、非常に高い強度が求められるTFコイル外装部に使用している『J1鋼』で作られており、刻まれている銘（『ITER TFC J1』）はその意を表しています。

QSTは量子科学技術、放射線医学そして核融合に関する世界最先端の研究を行う公的な研究機関です。当社はこれまで核融合分野、特に『JT60』や『ITER』といった大規模プロジェクトに参画してきました。

核融合技術は二酸化炭素を排出せずに持続可能なエネルギーを生み出す技術です。弘電社は引き続きクリーンで持続可能な未来のエネルギー供給への貢献を目指してまいります。

この度の模様がQSTのITER公式サイトに掲載されています。是非ご覧ください。

https://www.fusion.qst.go.jp/ITER/iter/ITER_Japan_News_125.html

